

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費
		目指す姿	01	総務管理費	11
中事業	12	主要な取り組み	KPI	—	目標値
小事業	03	平和活動事業	目標年度	令和6年度	—

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	世界では、未だに戦争や紛争により多くの人命や財産が奪われ、改めて平和の尊さが再認識されている。戦争体験者が高齢化してきている今、1人でも多くの若者が平和への思いを受け継ぐことは、未来へ続く平和につながるものとして重要である。					
事業目的	(1) 対象 市民及び西中、東中、双葉中、美濃加茂中の生徒 (2) 目的 平和推進活動として、講演会の開催、長崎市青少年ピースフォーラムへの中学生派遣、広報等での啓発により、世界恒久平和と核兵器のない世界の実現を願い、市民の平和意識の高揚を図ることで、戦争のない恒久平和が達成され、平和で住みやすい美濃加茂市とする。					
事業概要	○平和活動事業の実施 - 平和講演会を開催し、広く市民に平和意識の高揚を図る。 - 長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」へ市内の中学生を派遣し、若い時期から平和の尊さを学んでもらうとともに、その参加体験を講演会の場などで周知することを通じ、広く市民に平和意識の高揚を図る。 - 平和首長会議（H24～）及び日本非核宣言自治体協議会（H28～）への加盟により平和活動事業を推進する。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	956	836	936	978	
	決算額	60	30	803		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		100 / 0				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	長崎市青少年ピースフォーラム参加者数（人）	目標値	8	8	8	8
	実績値	0	0	8		

アウト カ ム	KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	平和意識を高める平和講演会参加者数（人）	目標値	120	120	120	120
	実績値	0	0	0		

実 績	実績	- 長崎市青少年ピースフォーラムへ中学生8人派遣 - 平和講演会開催中止 - 広報みのかも10月号特集記事として派遣生の参加報告を掲載
	効果	ピースフォーラム参加中学生をはじめ、この参加者の体験談を聞く市民の平和への意識が向上し、またこの体験を広く発信することで、市民全体の平和への意識向上に繋がった。

評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	令和3年度まで新型コロナの影響により、中学生の現地派遣を中止していたが、令和4年度から再開することができた。
	KPI分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	平和講演会の機会を設けることができず、広く市民へ発信することとしては、広報みのかもへの特集記事（参加者体験談）掲載のみとなった。
	実績からR05年度の事業の方向性	長崎市への中学生派遣の継続と、派遣生の体験発表の機会を設ける。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費		05	社会教育費		04	図書館費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—					目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	21	中央図書館資料等整備事業		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	図書館法第三条 図書館の奉仕 を根拠に資料の収集に努めている。美濃加茂市立図書館運営方針では、「市民の生涯学習活動を支援する情報拠点として、多様化する学習要求に応えられるよう図書館資料の充実を図り、ネットワークを活用した市民サービスを推進し、読書普及に努める」としている。				
	事業目的	(1) 対象 市民、図書館利用者 (2) 目的 資料の収集と読書普及。学ぶ自由を保障し、地域の知的情報活動の拠点となる。				
	事業概要	あらゆる興味に対応できるよう、特に中央図書館では地域に根差した図書館であることを目指しているため、郷土・地域資料を収集する。				
	事業費 (千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	5,787	5,841	5,769	5,820	
	決算額	5,787	5,792	5,764		
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	32 / 1,167				

アウト プ ット	活動指標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	蔵書更新率 (%) (年間受入冊数+年間除籍冊数)/ 前年度末蔵書数	目標値	4.5	5	5	5	5
		実績値	4.5	2.7	2.5		

アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	貸出冊数 (冊)	目標値	100000	100000	100000	100000	100000
		実績値	61552	95180	103636		



実
績



評
価
分
析

実 績	来館者数：49,652人 貸出冊数：103,636冊 蔵書冊数：148,681冊 (北部分室含む)
効 果	・図書館利用者の生涯学習に役立っている ・市の課題 特に健康課、高齢福祉課、こども未来課の事業に貢献した

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	前年度までの除籍作業により開架室の書棚に余裕ができたため、除籍の冊数が減り、更新率が下がっている。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍を越え、通常開館できたことで貸出が伸びた。また令和4年度の貸出冊数は、本の紹介展示やSNSでの情報発信を強化したことで、コロナ禍前の水準以上に増加した。
実績からR05年度の 事業の方向性	積極的に紹介展示を行い、それを情報発信することで来館を促す。 来館しやすい館内の雰囲気作りも大切に、貸出冊数を増加させる。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費		04	図書館費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業		K P I	—			目標値	—		
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	22	東図書館資料等整備事業		目標年度	令和6年度							



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	図書館法第三条図書館の奉仕を根拠に資料の収集に努めている。美濃加茂市立図書館運営方針では、「市民の生涯学習活動を支援する情報拠点として、多様化する学習要求に応えられるよう図書館資料の充実を図り、ネットワークを活用した市民サービスを推進し、読書普及に努める」としている。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 市民、図書館利用者 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 資料の収集と読書普及。学ぶ自由を保障し、地域の知的情報活動の拠点となる。				
	事業概要	あらゆる市民の利用を考え、読書バリアフリー（DAISY、多言語など）にも対応できるよう資料を揃える。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	5,561 5,551	5,535 5,532	5,442 5,440	5,496	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		290 / 666				

実
績

実 績	来館者数： 74,593人 貸出冊数： 131,190冊 蔵書冊数： 105,684冊
効 果	・ 図書館利用者の生涯学習に役立っている ・ 市の課題 特に健康課、高齢福祉課、こども未来課の事業に貢献した



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	開架室から閉架への移動作業、除籍の冊数が減ったため更新率が少しさがっている。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	コロナによる臨時休館することなく、通常開館できたことで前年度より貸出が伸びたと考えられる。しかし、春休みや夏休みなど長期の休みなど子どもたちだけの来館が少なくなっているのは、子どもたちにまだコロナの影響が多く残っていると推察する。
実績からR05年度の事業の方向性	継続。 積極的に展示を行い、本の貸出を増やす。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	蔵書更新率(%) (年間受入冊数+年間除籍冊数)/ 前年度蔵書数	目標値	6.4	6.4	6.5	6.5
		実績値	6.5	4.5	4.3	



アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	貸出冊数〔図書のみ〕（冊）	目標値	160000	160000	160000	160000
		実績値	80175	113888	131190	

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費		05	社会教育費		04	図書館費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—					目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	23	図書館利用促進事業		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	図書館法第三条図書館の奉仕における学校教育の援助、家庭教育の向上に資するためのサービスを提供することが求められている。 障害者差別解消法、読書バリアフリー法のもとに、合理的配慮がされた資料の購入が必要である。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 市民、図書館利用者 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 利用しやすい図書館を目指し、結果利用者の増加となる。				
	事業概要	図書館運営の全般にわたる事務経費 研修やイベントを開催し、刺激のある図書館が市民の健康寿命の一助となる。 絵本を介して親子のふれあいを大切にするブックスタートを行い将来的に読み聞かせの継続を目指す。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,184	2,454	2,268	2,162	
	決算額	1,963	2,172	2,082		
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	98 / 642				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	中央図書館・東図書館及び北部分室の展示の回数（回）	目標値	55	55	55	55
		実績値	96	185	166	

アウト カ ム	KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	中央図書館・東図書館及び北部分室の貸出冊数（冊）	目標値	260000	260000	260000	260000
		実績値	141727	209068	234826	



実 績	実績	来館者数：124,245人 中央：49,101人 東：74,593人 北部：551人 展示の回数 中央：109回 東：50回 北部：7回 施設貸出件数 東図書館 視聴覚ホール99件 会議室259件 和室53件
	効果	通常より大きなフォントの大活字本や白黒反転の大活字本の形態で様々なジャンルの本を充実させることで、小さな文字に苦勞して読書している人から喜ばれている。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	展示をすることで、普段は手にとらないかもしれない本にも関心をよせることができています。
	KPI分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	来館者すべてが本を借りるわけではなく、新聞や雑誌を読んだり、視聴覚資料の視聴や調べ物をする人もいる。まだコロナ禍のため、外出等を控えているのではないかと。そのため、来館者が伸びず、貸出冊数が未達成となったと思われる。
	実績からR05年度の事業の方向性	次のことを実施し障がい者サービスの充実、新規の利用者を増やし、貸出を増やしていく。 ・学校図書館図書主任、学校司書にDAISY資料について説明する機会を設ける ・図書館通信やインスタグラムを利用したPRを行う ・可茂特別支援学校を通じて利用案内をする

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費	05	文化振興費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業			K P I	—		目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—								
小事業	24	文化活動推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	市民の芸術文化及び社会教育の振興と福祉の増進を図っていくため、文化だけではなく市民の交流の場、活動の場としてのかもへのカラーが求められる。会場のキャパもあり参加者を大きく増やすことはできないが参加者の満足度を高めることで施設設置の目的を達成する。				
	事業目的	(1) 対象 子どもから高齢者までの幅広い各年代層の市民。 (2) 市民がグループやサークルで交流することにより、コミュニケーションや地域活動の活発化を促し、文化会館を拠点として、地域社会を結びつけることを目的とします。				
	事業概要	交流の場として、一人一人が生き生きとした活動の場や発表する環境を提供し、市民活動が活発に行われ市民参加を促進します。 主な事業 ・市民交流の輪が広がる事業。 （姫ロック、ダンスフェスタ、バンドフェスタ、ドリームコンサート、木曾川和音会等） ・市民参加の活動を広げる文芸事業。 （文芸祭、書き初め展等） ・音楽にふれる文化事業。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	5,059	7,695	8,524	8,075	
	決算額	1,339	2,507	5,624		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	3,390 / 3,428				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	音楽普及事業（ドリームコンサート）への参加者数	目標値	2000	2000	300	500	500
		実績値	0	2327	473		

アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	事業の満足度（ドリームコンサート）	目標値	80	80	80	80	80
		実績値	0	81.5	74.5		



実
績

実 績	文芸祭応募点数実績 1,810点 ドリームコンサート 473人 ドリームコンサートアンケート満足度3.5(75%)
効 果	人々が集うことで音楽を中心とした文化活動が与える潤いを日常生活に感じてもらうことで、若者や女性が活躍できる、活動できる美濃加茂市としての活力を生み出す。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	入場者数についてはコロナ禍が徐々に緩和されるにつれ目標値を上回ってきた。 満足度については出演者を精査。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	出演者によって入場者にばらつきがある。 また、演奏レベル、コミュニケーションの上手さによって満足度が大きく変わる。
実績からR05年度の 事業の方向性	定期開催であり、参加型イベントであるドリームコンサート等を引き続き継続していく。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費		04	図書館費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業		K P I	—			目標値	—		
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	25	図書システム広域利用事業（定住）		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	・図書を管理するシステムの維持、運営に使用するIT機器の更新には費用がかかります。統合することでコストをおさえる。 ・資料購入費の維持も難しくなっている。システムを一元化することで、同じ本の購入を避けて幅広いジャンルの図書を購入することができる。 ・ネットワークを活用した市民サービスを推進し、利用できる館の選択を増やし図書館を身近なものにする。（美濃加茂市と坂祝町は図書館システム広域利用を2011年から実施している） ・すばらしい発見が図書館にはあるのに、利用したことがない、馴染みがない、本好きが行くところなど図書館のことを知られていない。もっと利用を増やすためにも、蔵書の充実や魅力のあるイベントの企画が必要である。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 美濃加茂市と坂祝町の図書館及び利用者 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） 利便性が高まり図書館の利用が増えることにより、読書普及はもとより情報の拡散、人の交流が活発になる				
	事業概要	事務経費の軽減を図るとともに、利用者がより身近に図書館を利用できる環境を整備するために、美濃加茂市立図書館・坂祝町中央公民館図書室が、図書資料及び図書館機器等、図書館運営の全般を共同運用する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	6,009	5,921	5,550	5,261	
	決算額	5,673	5,919	5,549		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	227 / 441				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	新着図書情報交換、展示資料一覧交換を行う（件）	目標値	61	80	130	130
		実績値	122	139		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	貸出冊数（冊） ※美濃加茂市で坂祝町民が借りた冊数+坂祝町で美濃加茂市民が借りた冊数（個人利用）	目標値	14860	15120	15190	15220
		実績値	15408	15866		



実 績	実績	【共同システムの運営・管理】 ・複本購入を避け、本棚にある本の予約本の確保や利用者向け一般図書の新着図書リストの情報交換(139件)を行った。 【研修やイベントの開催】 ・昨年に引き続きテーマを変えて理科読イベントを行った。 開催場所：美濃加茂市東図書館 参加人数：美濃加茂市71人、坂祝町14名
	効果	・複本購入をさけることで幅広い選書、購入することができた ・坂祝の図書室に美濃加茂の新着図書リストを掲示することでアナログ世代の図書館利用に役立っている ・共同イベントを行った結果、普段図書館を利用しない親子の参加があった



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	新着図書情報及び展示資料一覧の交換件数が昨年度から増加したことにより、貸出冊数の増加へと繋がった。 また、インターネットでの予約に限らず、来館した方からも館内の展示物を確認し、新着図書等を借りるケースが多くみられた。 実績に応じて、目標値を変更する。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	坂祝町で乳幼児の利用が減っている対策が必要：子育て支援施設バンビーニができて家庭学級もそちらで行われるようになり、図書室に子ども連れの親子が来なくなっている。 ・美濃加茂市で坂祝町民が借りた冊数、人数 →冊数：11,256冊、人数：2,942人（内訳：中央2,400人、東542人、北部0人） （R3）冊数：9,438冊、人数：2,342人（内訳：中央1,916人、東425人、北部1人） ・坂祝町で美濃加茂市民が借りた冊数、人数 →冊数：4,610冊、人数：1,022人（R3）冊数：5,970冊、人数：1,147人
	実績からR05年度の事業の方向性	・前年度より継続 ・（坂祝）バンビーニ等子育て支援施設への図書館PRを行い新規の利用を増やす

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—				目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—								
小事業	26	生涯学習情報誌等の共同事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	圏域の活性化を図るには、魅力的な人づくり・地域づくりが必要であり、そこへつなげる生涯学習活動は重要な役割を担っている。そのため、多様で豊富な学習機会を圏域住民に提供できるよう、また、効果的・効率的に事業を推進できるよう、広域での生涯学習情報誌発行やホームページ運営に取り組んでいる。広域での取り組み以前は、市町村ごとに講座情報を提供し、参加者も住民に限定されることが多かった。そのため、講座メニューの広がりがなく、住民の生涯学習機会は限られ、住民の学習欲求を満たしているとは言えない状況であった。また、情報提供は紙媒体が中心で、情報が届くまでに時間と手間がかかるうえ、多くの方が手軽に情報入手できる手段が必要である。					
事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 定住自立圏圏域の住民（市民） (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 住民の学習環境整備が進み、学習機会が充実することによって、住民の学習欲求が満たされる。また、学習を通じた住民の交流が進む。					
事業概要	圏域住民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、圏域の各市町村で開催される講座情報をまとめて掲載した生涯学習情報誌「学びのとびら」を発行する。また、若い世代を含めた多くの住民が手軽に生涯学習情報を入手できるよう、専用のホームページによる情報提供もおこなう。ホームページには、圏域市町村の講座情報のほかサークルや生涯学習関連施設の情報なども掲載し、希望する情報を簡単に検索することができる。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,543	2,580	2,580	2,126	
	決算額	1,295	1,788	1,654		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		101 /			10	

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	定住自立圏域共同開設講座開講率（％）	目標値	90	90	90	90
	実績値	52	78	82		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	定住自立圏域共同開設講座受講者数（人）	目標値	2000	2000	2000	2000
	実績値	728	1822	2442		



実
績

実績	○R04.9 第23号を発行（美濃加茂・坂祝・八百津・東白川）77講座 ○R05.3 第24号を発行（美濃加茂・坂祝・川辺・富加・七宗・八百津・白川・東白川）100講座 ○生涯学習HP訪問ユーザー延べ件数 17,790人
効果	新型コロナウイルスが流行しながらも、各市町村が可能な範囲で講座を企画実施し、住民に機会を提供した。またその情報を冊子やHPを通して住民に提供することができた。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	引き続き各市町村で感染症対策をしながらの生涯学習機会の提供となったが、市町村を超えて参加者があり、昨年度よりも高い開講率となった。定住自立圏内の住民の「学びたい」という意欲の高まりと同時にそれに沿った事業展開ができています。 （開講数229/開講予定数278）
K P I分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮して、令和4年度は目標値を下方修正した。講座開講率の上昇に伴い、今回実績は目標を上回ることができた。
実績からR05年度の事業の方向性	令和5年度は感染症の対応も大きく転換が予定されている。人の活動がより活発になると思われるため、衛生対策と住民のニーズのバランスを取りながらより積極的な企画と周知をしていく。令和5年度も成果指標が目標を超えた場合、目標値を上方修正する。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	02	総務費	01	総務管理費	12	諸費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—				目標値	—	
中事業	15	主要な取り組み	—								
小事業	01	人権教育・啓発事業		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	人権問題自体が複雑で多義にわたり、とても難しい。人権啓発活動で多くの市民に知ってもらう必要がある。					
事業目的	(1) 対象 市民 (2) 目的 ・人権擁護委員と連携した各種イベントでの啓発活動 ・広報誌を活用した啓発（人権週間、人権相談など） 思いやりの心にあふれた、人を大切にするまち					
事業概要	・美濃加茂市人権施策推進指針に基づく活動 ・人権擁護委員の活動補助 ・人権啓発活動(各種イベント・人権週間等)					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	565	653	765	553	
	決算額	483	568	729		
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		403 / 0				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	人権啓発活動実施数（回）	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	2	7	4		

アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	この地域は人権が尊重されている とアンケートで答えた率 (%)	目標値	80	80	80	80	80
		実績値	53.8	56.4	50		



実
績

実績	・人権電話相談の周知（ホームページ、広報など） ・人権相談所の開設（人権擁護委員）特設相談（年6回） ・中学生人権啓発作文の募集 ・保育園人権啓発活動（10月24日） ・人権啓発講演会の実施（11月26日） ・人権街頭啓発（12月5日）
効果	人権電話相談の周知（ホームページ、広報など）、特設相談（年6回）、中学生人権作文の募集、保育園啓発活動、人権啓発講演会の実施、人権街頭啓発（12月5日）など啓発活動を行い、周知を行った。大きな変化はないが地道に活動が続ける必要がある。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍で活動を一部中止したため、目標の実施事業を達成することができなかった。補助事業の縮小に伴い、補助金の返還請求をした。今後は活動ができるようにしたい。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍で周知ができなかったためなのか、認知度が低い状況。今後は広い世代に周知活動が続けて、美濃加茂市の人権が尊重されるような市にしていきたい。
実績からR05年度の事業の方向性	令和4年度の前半はコロナの影響で6月の街頭啓発活動を中止したが、令和5年度には再開し啓発活動を行う。また、子どもフェスタなど市内で行われる行事での啓発活動についても、イベントの実施状況を見ながら啓発活動が可能な場合は積極的に啓発活動を実施する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費
		目指す姿	01	総務管理費	07
中事業	15	主要な取り組み	K P I	—	目標値
小事業	05	男女共同参画推進事業	目標年度	令和6年度	—

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	令和2年度から第3次みのかも男女共同参画基本計画をスタート。近年では女性の就業率が増加しつつあり、管理職や指導的地位への登用、意思決定の場への女性の登用など、女性の社会進出への支援が進んでいるが、それに伴い子育ての環境の整備、介護等の支援の充実などが、より課題として挙げられるようになっている。					
事業目的	(1) 対象 市民、家庭、地域、職場 (2) 目的 男女共同参画基本計画に掲げる事業の実施 すべての人の人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関係なく個性と能力を十分に発揮できるような男女共同参画社会の実現					
事業概要	国の「男女共同参画社会基本法」が掲げる理念を踏まえ、みのかも男女共同参画基本計画を策定し、計画に基づいた各事業を推進する。（啓発活動は定住自立圏事業で行う） ・みのかも男女共同参画基本計画（平成15年3月）策定 ・第2次みのかも男女共同参画基本計画（平成22年3月）策定 ・第3次みのかも男女共同参画基本計画（令和2年3月）策定					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	217	209	180	159	
	決算額	4	68	61		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		20 /			0	

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	男女共同参画推進委員・市民からの計画推進に関する意見聴取（回）	目標値	3	2	2	2
	実績値	1	2	2		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	地域活動の場での男女が平等であると考える市民の割合（％） ※R11年度目標値40.0%	目標値	27	24	26	28
	実績値	31.9	27.9	22.9		30



実 績	実績	啓発カードを施設に設置 電話相談の周知（ホームページや広報など） 男女共同参画推進委員会委員からの意見聴取
	効果	男女共同参画に関する取り組みの進捗管理及び美濃加茂市男女共同参画推進委員会からの意見聴取により、男女共同参画並びに子育て環境等の向上となる。 男女共同参画推進委員会が出された意見について関係課に共有することで、担当課が意見を取り入れた施策を進め、基本計画の目標値に近づく。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	男女共同参画の進捗に関する市民意識調査、美濃加茂市男女共同参画推進委員会からの意見聴取を実施し、現状の課題や取り組みの評価及び改善についての情報を収集することができた。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	男女共同参画に対する意識については、年齢別に特色があり、全体的には意識されている割合は低いが、若年層から男女共同参画への教育も進んでいることから、今後意識の向上は期待できる。
	実績からR05年度の事業の方向性	男女共同参画に関する行政の取組について進捗を管理し、広く市民の意識を調査することで、取り組みの改善に繋げる。また、イクボス事業について雇用者向けの講座を計画し、ワークライフバランスに対する理解を進める。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	02	総務費	01	総務管理費	07	市民まちづくり推進費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—			目標値	—		
中事業	15	主要な取り組み	—								
小事業	18	男女共同参画推進事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を目指すため、これまで継続して啓発を実施してきたが、依然としてある「性別によって役割分担を決めつけがちな意識」や「DV等の問題」に加え、「性的少数者や性の多様性への配慮」に対する視点も必要であることの発信も必要となっている。また、男女共同参画の考え方は日々刻々と更新されていくため、現状を踏まえた啓発活動を実施していくための情報収集や知識向上が必要である。					
事業目的	（１）対象 美濃加茂市民及び加茂郡住民、行政職員 （２）目的 研修・講座・勉強会等を企画し、開催する。 すべての人の人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関係なく個性と能力を十分に発揮できるような男女共同参画社会の実現					
事業概要	男女共同参画社会を実現するため、研修会等を圏域で連携して開催し、啓発活動と圏域の人づくりを行う。 ・男女共同参画について知る・考える・学べる研修や講座の開催。 ・職員対象の研修会を開催。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	460	400	400	400	
	決算額	20	30	37		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		48 / 0				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	企画講座・講演会等の数(回)	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	1	2	2		

アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	男女共同参画を認識している人の割合（参加者アンケート）（%）	目標値		77	77.5	78	78.5
		実績値		78.69	75.6		



実
績

実績	各市町村の図書館において、男女共同参画関連書籍を集めたブックフェアを開催、併せてアンケートを実施した。 R3年度勉強会で学んだ内容であるLGBTQに関する記事を6月の男女共同参画週間にあわせて各定住圏域市町村で一斉に広報誌へ掲載した。 今年度は新たに書籍の購入をし、職員の知識向上に努めるとともにブックフェアで活用するなど住民への意識啓発ができた。
効果	広報誌への特集記事の掲載により、住民へのLGBTQに関する理解を促した。 ブックフェアを実施したことで、図書館利用者に対して情報を発信することができ、また、アンケートに答える形で、男女共同参画について考える機会を提供できた。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	圏域住民を対象とした講座、講演会に代替するものとして、R3年度から始まったブックフェアについては、各市町村の状況に合わせ、2回に分けて開催した。 勉強会については、オンラインで男女共同参画の視点による災害対応研修の受講をした。また、書籍を購入し、情報収集や知識向上、啓発活動の充実に努めた。ブックフェアでの書籍の展示やLGBTQに関する記事の広報誌掲載を通して住民への啓発を継続的に行うことにより、一定の効果があらわれてくるのではないかと推察できる。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	男女共同参画の意識啓発を図ることを狙いとし、ブックフェア会場や生涯学習施設等でパネルアンケートを実施したりwebによるアンケートを実施した。目標値を若干下回ったが、固定的性別役割分担意識にとらわれない人の割合が大幅に下落することなく、高い水準を保つことができている。成果指標については、社会情勢や価値観の変容により、上昇したり下落するものと考えられるが、ブックフェア会場でのアンケート実施により、意識啓発が計れるものと分析できる。
実績からR05年度の事業の方向性	各市町村で同時に広報誌（6月号）に特集を掲載することなど、住民への意識啓発ができるような事業を行っていく。R3年度から始まったブックフェアについて、実施時期は各市町村の都合に合わせて行う。 また、住民向け講演会等の開催をする。